

## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	広島大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	Ed. D型大学院プログラムの開発と実践（教職課程担当教員の組織的養成）		
主たる研究科・専攻名	教育学研究科教育人間科学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 坂越 正樹		

### [教育プログラムの概要]

#### 背景と目的

大学院博士課程後期は、従来、専ら研究者の養成を主眼としており、教育系分野についていえば、教育学研究者の力量形成には熱心であっても、教育学関連科目の担当教員としての人材育成の視点は等閑視されてきた。大学教員の養成の機能は、極めて脆弱であったといわざるを得ない。ところが、現在、わが国では学力低下やいじめ等、教育への危惧の念が高まり、資質の高い学校教員の養成が求められている。教育系学部等において「先生の先生」として教鞭をとる教職課程担当教員の責任や役割は大きく、その資質向上もまた極めて重要である。

本研究科は、これまでわが国の教員養成に大きな貢献をしてきた。近年では教員養成GP「メンター制構築による実践的指導力の高度化」を実施し、大学院修士レベルで「教職高度化プログラム」を計画中である。本申請プログラムは、従来の研究者養成中心の「Ph.D型」の博士課程教育を改革し、教職課程担当教員としての資質能力を向上させる「Ed.D型」の教育課程を大幅に導入することによって、資質の高い学校教員の養成という社会的期待に応えることを目的とする。

#### 教育プログラムの内容と特色

本プログラムでは、教育人間科学専攻の教育学分野を中心とする博士課程後期院生に対して、教職教育に関するカリキュラム開発や授業シラバスを作成させ、本学教育学部の授業でTAとして教育実習をさせその授業実践を反省・評価させるというPDCAのサイクルを繰り返し、授業実践のポートフォリオを作成させることにより、大学の教員養成担当者としての資質能力を向上させる。

本プログラムの特色は次の6つをあげることができる。

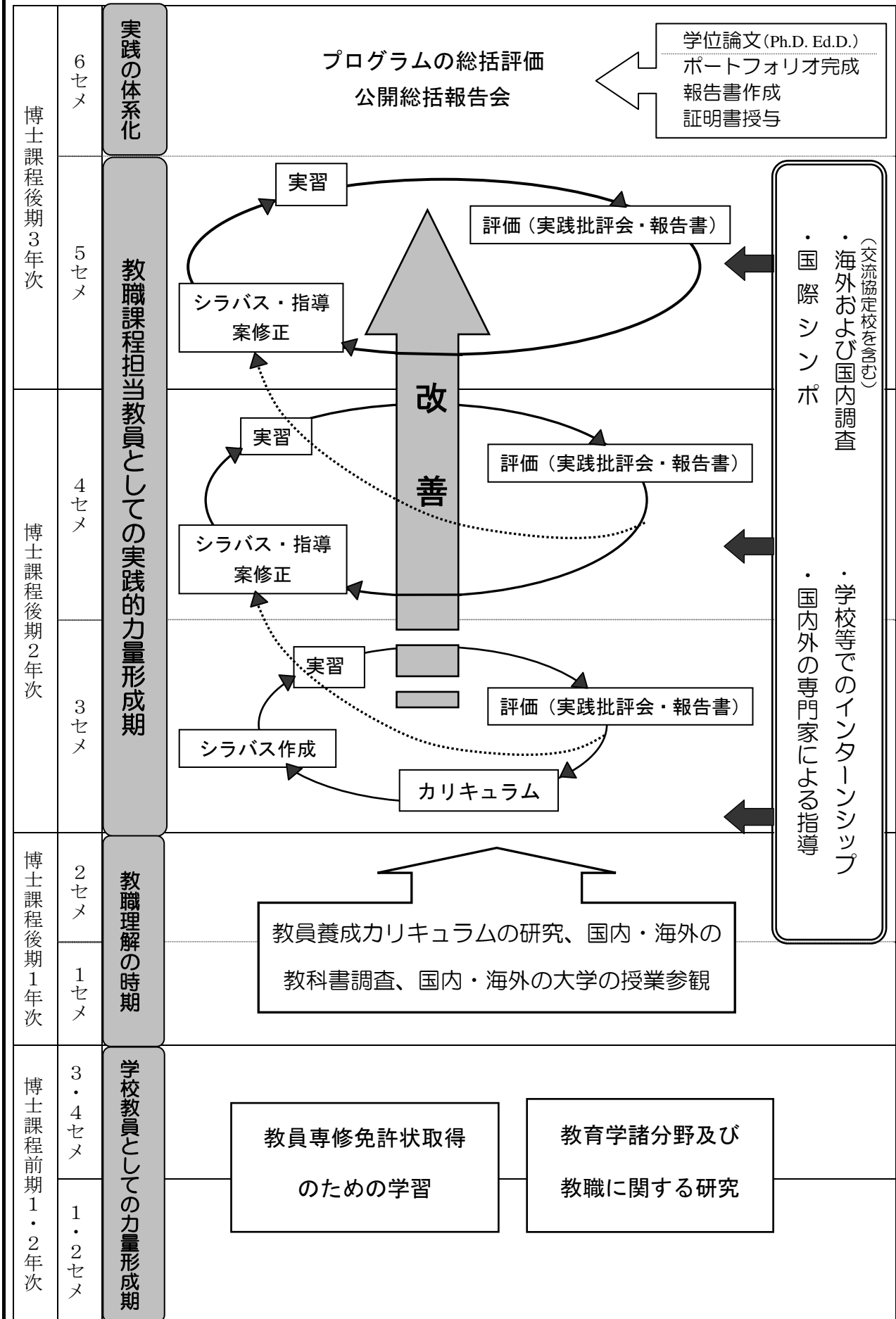
- 1 教育者としての資質を形成させるため、大学院博士課程後期において授業を新設すること
- 2 指導教員の指導のもとでカリキュラム開発やTAとして教育実習を行い、反省・評価を行うこと
- 3 上記のサイクルを繰り返し、ポートフォリオを作成し、力量を継続的に向上させること
- 4 実績ある欧米の教育系大学院等と連携しFDや教職関連授業を参観し指導助言を得ること
- 5 広島県教育委員会等の職員から実践批評会での指導助言を得るとともに、現職教員研修会での指導補助を行わせること
- 6 プログラムの実施の各段階全体について外部の有識者による継続的な評価を行うこと

#### 期待される効果

本プログラムの期待される効果は主に3つあげられる。

- 1 教員養成学部や「教職大学院」等における教職関連科目担当教員の資質向上に貢献すること
- 2 わが国における就学前教育及び初等・中等教育の質的向上に寄与すること
- 3 教育系大学院教育における革新のモデルとなり全国的な波及効果が見込まれること

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、大学における教職課程担当教員養成という、今日、必要とされている目的を明確に掲げた上で、それに沿って、教職課程担当教員としての資質能力を向上させる「E d. D型」の教育課程が体系的かつ周到に編成されており、またファカルティ・ディベロップメントの実施体制も整備されており、高く評価できるが、本プログラムへの専任教員の関わり方に関してさらなる工夫を講じることが望まれる。

教育プログラムについては、大学院生に対し、教職教育に関するカリキュラム開発や授業シラバスを作成させ、ティーチング・アシスタントとしての教育実習を通じて評価するという新しい試みが、現在の教育体制から無理なく取り組まれるように計画されており、本プログラムの実現可能性はきわめて高いと判断できるが、学生の主体的・能動的な研究を推進するという面などから、教育プログラムの更なる工夫が望まれる。